

希望への「第一歩」

(マルコ五・二五～三四)

母一人子一人で小さな釣り船屋を営む家族。だが母親思いの少年はいじめられっ子。そんな彼がひとりのプロボクサーと出会い、ジムに入門し、数々の戦いの中で成長していく。少年マガジンの看板漫画「はじめの一步」である。連載はゆうに千回を越え、単行本の発行部数は一億部に迫り、既刊コミックは一一二巻(一)。あの「ONE PIECE」が八十巻だというのだから、全くすごいコンテンツと言うほかない。

しかしなぜこの漫画がこれほどまでに支持されるのだろうか。要素は色々あるのだろうが、やはり主人公である幕之内一步が「一步踏み出す」ことによって不利な状況から一転逆転勝利をものにしていくという、大衆的だが王道の展開に大きな魅力があるのだと思う。時に今朝の個所もまた一步を踏み出して人性の変革を体験した女性の物語である。以下に彼女の人生を変えたものについて考えてみたい。

一、彼女を踏み出させた「信仰」

この女性は病に苦しんでいた。「長血」とは一種の婦人病であり、その名の通り不正出血が止まらないことを示している。当時の医学は彼女を救うことは出来ず、減るのは財布の中身ばかり。ついには全財産を失ってしまった。そればかりではない。この病気は彼女から「関係」をも奪った。当時のユダヤ人社会ではこの種の「出血」は「けがれ」と捉えられていたので、彼女の人間関係は著しく制限された。つまり彼女は病の結果、経済的にも、社会的にも、そして宗教的にも隔離され、孤独になることを余儀なくされたのだ。それが一二年も続いたのだ。一つの希望もなくなっただといつても言い過ぎではないと思う。

しかしそんな彼女のもとにあるニュースが飛び込んできた。それはナザレのイエスという男についての噂であった。聞けばその男は権威ある教え手であり、同時に悪霊を追い出し、癒しを行うと言うではないか。彼女の心に希望の火がともった。「お着物にさわることでもできれば、きつと直る」と考えたのだ。時にこの「考えた」は直訳では「言っていた」となる。あるいは彼女は「触れば、直る、きつと直る」とつぶやいていたのかもしれない。そのようなある種の原始的な信仰心が彼女に大胆かつ驚くべき一步を踏み出させたのだ。

二、彼女に与えられた「祝福」

わたしたち、彼女は未来に続く真のいやしと救いを体験したのである。

* * *

彼女は踏み出した。彼女に触るものは「汚れる」(参：レビ二五・一九)のだから、本来人込みはタブーだ。しかし彼女は顔を隠して人ごみに紛れ、イエスの後ろ姿を認めると思いきつて手を伸ばして彼に触った。その瞬間彼女はイエスのいやしを「体感」した。しかし次の展開は女を恐怖に突き落とした。なんとイエスが「誰だ、私の着物に触ったのは」と言いだしたのである。弟子たちの制止もイエスをとどめることは出来ない。ついに彼女はイエスにひれ伏し、事の次第を全部話した。するとイエスは「あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にからず、すこやかでいなさい」と言われたのだ。興味深いのは「直した」と訳されている言葉には「救った」という意味もあるということだ。つまり彼女が得たものは「病気治し」に留まらなかったということである。実際イエスはここで癒しを宣言するとともに彼女の未来をも祝福されている。病気が直ったから働くことが出来る。そうすれば失ったお金を取り戻すことも出来よう。また病気が直ったことにより、彼女は「けがれ」と言う隔離室から解放される。そこにあるのは健やかさと神の平和だ。イエスに出会い、信仰を告白して、はじめの一步を踏み出し、イエスの衣にさ

例の幕之内一步くんではないが、実は私も元ボクサー。社会人の頃はタイ式ボクシング(ムエタイ)でならした。その頃は仕事もプライベートも順風満帆。悩みとは縁遠い生活を送っていた。そんなある日、胸に突然激しい痛みを覚えて病院へ行くと診断はなんと狭心症。血管拡張の手術を勧められた。これがもとで好きだった格闘技の世界からは引退。病の恐ろしさとしみじみを体験した日々を過ごした。そんな時教会での賛美集会に誘われ、そこでイエスが救い主であり、いやし主であることを教えられた。私はそれを信じ、心から神を賛美した。するとどうだろう、気がつけば一時間もの間、私は飛びはね、走り回って賛美していたのだ。心臓は全く痛くない。至って元気である。そこで病院に行くこと「全く健康です」とのこと。私は身体の内やしと、たましいの救いを体験したのである。ハレルヤ！イエスの救いといやはしは聖書の中だけのことではない。今、イエスを信じよう。イエスは人には出来ないことが出来るお方、私たちの救い主だ。もう一度言おう。今イエスを信じ、祝福への第一歩を踏み出そうではないか。